

三翠化学

(題字は稲川先生)

第 63 号

平成 26 年 8 月 1 日 発行

三翠化学

津市栗真町屋町1577

三重大学大学院生物資源学研究所内

電話 / (059) 232-1211

振替 / 00890-1-59345

印刷 / 株式会社 あるむ

TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

平成二六年度三翠化学会総会のご案内

平成二六年度九月二三日(土) 午前二時三十分より受付 二二六番教室

於 三重大学生物資源学部二階 二二六番教室

盛夏の候、会員の皆様方にはお元氣にお過ごしのことと拝察申し上げます。日ごろは三翠化学会の運営にご協力賜り篤く御礼申し上げます。

さて、昨年は当会単独で総会を持ち、九〇名に及ぶ大勢の皆様にお集まり頂き盛大に会を持つことができた。

また、ありがとうございます。今年は二年ごとに開催される三翠同窓会総会(親同窓会)の日にあわせて、母校(生物資源学部二二六教室)にて標記のとおり開催致します。ご多用のところ恐縮ですが昨年同様熱気あふれる会をもう一度持ちたく、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。当日は三重県支部総会もあわせて開催します。また、三翠化学会の総会終了後、親同窓会の三重県支部、本部の総会が開催され、そのあと懇親会もたれます。化学以外の同期の方などと会う絶好の機会です。

母校では学科再編の動きがあるやに伺っており、現在文科省との折衝が精力的に続いている模様で、同窓会組織との関連も大きいかと思いますが、今後の推移を見守りたいと考えております。

同封の印刷物(黄色の紙)でお願い致しました。おき、三翠化学会活動維持のため賛助金を頂きたくお願い申し上げます。これまで数回にわたりご説明いたしましたように、本会は新入会員の入会がとだえ組織が成熟すると同時に、財政的にも逼迫して参りました。この事態を乗り越えるため、昨年度総会で皆様から賛助金をいただく案が認められましたので、今回第一回目をお願いする次第です。三翠化学会の活動を維持し、何よりも機関紙「三翠化学」を今後も継続して発行できるように、皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

なお、同封のはがきで出欠等ご連絡下さい。

母校では学科再編の動きがあるやに伺っており、現在文科省との折衝が精力的に続いている模様で、同窓会組織との関連も大きいかと思いますが、今後の推移を見守りたいと考えております。

平成二五年度総会報告

「三翠化学」発行にあわせ賛助金を会員の皆様に依頼決定

平成二五年度総会は、平成二五年一月二三日(土)に母校三重大学生物資源学部大講義室において開催された。総会、講演会、懇親会(一次会)のあと場所を志摩市浜島に移して合同クラス会(二次会)がもたれ、翌二四日(日)には皆で伊勢神宮に参拝した。両日とも申し分ない小春日和で、二次会参加者も含めて九〇余名の参集を得、盛会であった。

総会は、このところ二年に一度親同窓会の開催日にあわせてもたれるのが慣例になっていたが、本部の活動が低下しているとの声をうけ、昨年に引き続き三翠化学会独自に総会が開催されたため、議事の進行は若干異例となった。梅川理事司会の元、内田氏(大15回)を議長に選出し議事が進められた。事業報告(勝崎幹事)、会計報告(三島幹事)は二四年度報告と二五年度途中経過を報告するにとどめ、採決は次年度総会に持ち越された。

財政状況の悪化から、伝統ある機関紙「三翠化学」の継続発行が危ぶまれることをうけ、本紙発行のたびに賛助金を頂く案件が審議された。翌日伊勢神宮に参拝する計画になっているため、ご選宮に詳しい人文学部山田雄司教授による「伊勢神宮と式年遷宮」と題する講演をお聞きした。学術的な真摯なご説明で、我々が普段知らない多くの歴史的事実を教えてください、意義深い内容であった。

講演終了後、会場を新装成った三重大学病院の最上階(二二階)にあるレスト

ラン「四喜折々」に移して、懇親会(一次会)が開催された。好天に恵まれ、眼下に伊勢湾を一望でき対岸の中部国際空港やそこに着陸する飛行機までくっきりと見え、この場所を会場に選んだ意図は十分に達せられた。木村理事(大25回)司会のもと、恩師熊澤先生、鳴林先生、梅林先生、田中晶善理事・副学長のお話、各支部長、クラス会開催学年の代表者によるスピーチを聞きながら、立食パーティには珍しい中華風の料理とお酒を楽しみつつ、恩師や級友との会話を楽しんだ。

合同クラス会(二次会)参加者はその後の日程が詰まっているためバスに乗り込み、一路志摩市浜島の民宿「中井荘」目指して出発した。大学に残った人の一部は、現職教員である

田垣理事、梅川理事案内のもと学内ツアーに参加し、旧農芸化学の血を引く研究室の見学や学内にある三翠の息吹を感じる建物を見回った。

夕刻中井荘に到着したメバンパーは、近くのホテルで温泉につかり汗を流してさっぱりとした気分度、クラス別に用意された会場に入ってクラス会に望んだ。大30回のクラスには担任だった熊澤先生が、大16回を中心とするクラス会には鳴林先生が出席頂き、話の花が咲いた。大15回と大36回のクラスを含め、四クラスがクラス会を開催した。宴会後一部の人は貸切のカラオケスタジオへ出向き自慢のものを披露したようであった。

翌日二五日も絶好の日和に恵まれた。伊勢神宮周辺の混雑をさけるため早めに行動を開始し、七時半には宿のバスで鶴岡駅まで送ってもらい、近鉄特急で宇治山田駅下車、路線バスで内



平成 25 年度総会風景 枠内左より小畑先生、内田氏、梅川先生



懇親会風景



熊澤善三郎
名誉教授



嶋林幸英
名誉教授



嶋田協
名誉教授



前田 巖
先生



梅林正直
名誉教授



梅林正直先生ノーベル平和賞候補に！ 最近桜植樹も！！

の活動が平和賞にふさわしいとして推薦されたものであります。

先生は退官後、深いお付き合いのあったタイのチェンマイに毎年三月月間二回滞在されて、タイ北部の山岳民族に対し麻薬の原料となるケシに代わる換金作物として梅をはじめとする果樹栽培を指導して、現地の方々から深く感謝されています。

タイ、ラオス、ミャンマーの接点にある黄金の三角地帯と呼ばれる地域からケシを撲滅しようとする先生の活動が、平和賞にふさわしいとして高く評価されたものと思われまふ。

平成二〇年度外務大臣表彰、同年二三月三重大学学長特別表彰第一号、平成二四年には食の新潟国際賞受賞、昨年春の叙勲で瑞宝

恩師梅林正直先生(平成九年三月ご退官、土壌学・植物栄養学)は、この度三重大学学長、チェンマイ大学学長はじめ日本国内七大学、タイ国四大学の学長及び日本の国会議員から個別にノルウエーのノーベル平和賞委員会に推薦され、候補となられました。

先生のタイにおける長年易に搬出・出荷され、栽培

中綴章を受章されました。この一四年間はこれらの活動に加え、日タイ友好をさらに深めるため毎年タイで七夕植樹祭を行っておられます。三重県選出の国会議員尾崎聖堂翁がアメリカに桜四千本を贈った丁度百年目にあたる昨年から、桜の植樹も始められました。また先の大戦で七十年前に多くの将兵が命を落としたメーホンソンへの桜並木を作るため、これから五年間で五万本の桜を植えた

(小畑(大15)記)

(小畑(大15)記)

祝！熊澤先生米寿 30 期浜島に集う



平成 25 年 11 月 23 日、快晴のどこまでも青い空の下、母校三重大学で開催された三翠化学会総会・懇親会の盛り上がりもそのままに、農芸化学 30 期の 10 名と担任の熊澤先生は、浜島の民宿中井荘にバスで移動、熊澤先生の米寿のお祝いを兼ねてクラス会を行いました。この 10 名という人数は、今回の三翠化学会総会で他の学年を大きく引き離れた参加数。30

期の絆の強さを改めて感じます。到着後早々に始まったクラス会でも、大学時代の思い出、またみんなの近況やらで、話題はつきることはありません。米寿をお祝いする記念品として、同期有志一同より熊澤先生に試験管を振る似顔絵の色紙を贈呈。先生には大変喜んでいただきました。熊澤先生は厳しかった大学時代よりも幾分穏やかになられた様子ですが、今でも定期的にスポーツジムで運動されるなど、体の鍛錬もかかさず生活とか。身体のあちこちの不調を訴える 50 代半ばの私たちは反省することしきりです。翌日は、遷宮後の伊勢神宮内宮に参拝。日の出旅館での昼食後、来年名古屋での再会を約束し、それぞれ帰途につきました。幹事としてご尽力いただきました山田君、尾崎君、青山君、本当にありがとうございました。(小川(大 30) 記)



教授昇任のご挨拶

木村 哲哉

このたびは資源循環学専攻循環生物学講座の微生物遺伝学教育研究分野教授として辞令をいただきました。新しい分野となっておりませんが、実験室も十九年前に赴任した当時の研究室(現微生物工学、旧応用微生物)で、栗冠先生と二人体制という組み合わせに変更はございません。

農芸化学時代の卒業生の方にとっては、ご自分の卒業された研究室がどのようになったのか分かっていくにつれておもしろい、微生物工学研究室は先輩方より受け継がれてきた「微生物の応用」をめざした研究が行われて

おります。現在研究の中心となっている嫌気性細菌も卒業生の方が苦労してスクリーニングされたものがほとんどです。社会の変化に応じて組織もめまぐるしく変わっておりませんが、幸いにして発酵学、応用微生物学、微生物工学と受け継がれてきた研究室の伝統は在学生に引き継がれております。

先輩方の築かれたものにあぐらをかいて新しい開拓を怠っているとおしかりを受けるかもしれません。解析技術の進歩によって昔から受け継がれた菌株から新しい発見ができるようになり、まさに「温故知新」です。

研究室の学生は、昔の卒論や修論を聞いては、「○○さんの論文にはこう書いてあった」といつ自分の実験結果を理解しようとしております。私は、「昔の卒論はこんなにたくさん実験しているのに」とぼやく日々です。「老舗の看板」とはありがたいものです。

三重大学の農芸化学という学問分野で長年にわたり積み上げられた実績に少しでも新しいものが積み上げられるよう微力ながら努力をしていく所存です。今後とも卒業生の皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成二五年度 三翠化学会関西支部総会



「毎度おおきに。儲かってまっか。」
さて第一五回関西支部

長(大 19)の「本年度のメ

口幹事(大 20)が会計監査

ました。

酒を思い出のスピーチ等、楽

うたの申します。

うたの申します。

第六回三翠化学会関東支部交流会報告

(関東支部支部長 吉田 吉明)

平成二六年二月二二日
(土)、第六回三翠化学会関
東支部交流会を江戸川区船

堀の朝日信用金庫船堀セン
ター内のコラボ産学官プラ
ザ五階セミナー室で開催し

ました。

開会挨拶、そして小畑会長
から三翠化学会の活動状況
を含めた来賓あいさつをい

ただいた後、杉崎護(大 16
回)さんから、昨年一月
二二〜二四日に開催された

「平成二五年度三翠化学会
総会・懇親会」の報告が行
われ、三翠化学会の今後の
展開について意見交換をし

ました。

本日から小畑
仁三翠化学会会
長(大学第 15 回)
と杉崎護(大 16
回)さん、また
三重大に以前在
職され、現在千

葉大学大学院の
犬伏和之教授に
も出席いただ
き、今回は総勢
二六名の参加で
した。

東海裕作副支
部長(大 19 回)
の進行のもと、
吉田関東支部
長(大 18 回)の

「目から鱗の世界遺産
一〇〇」と題し、市川正
(大 16 回)さんをお願いし
ました。現在、世界遺産は
九八一件が登録されている
ようですが、市川さんは世
界遺産がその地域の地理、
歴史、文化等を知るための
素晴らしい教材であり、定
年後の趣味の一つとして、

夫婦で行ける安全な世界遺
産を選び旅をしたとのこと
です。

一九五九年四月から
二〇一三年九月まで、
アメリカカケ所、アフリ
カ一〇カ所、ヨーロッパ
四カ所、オセアニア六カ
所、アジア一カ所、そし
て国内一五カ所の二七カ所
一〇〇カ所を訪れ、自ら撮
影した風景をパワーポイン
トで紹介し、その中から興
味深かった世界遺産につい
て感想を語っていただきま
した。

本人も自画自賛する素晴
らしい風景を幾つも見させ
ていただきましたが、何よ
りも市川さんの企画力と行
動力に感心させられました。

最後に、恒例の浅井副支
部長の指揮で「三翠応援歌」
を大合唱し、今回は参加者
の最年少の井上典之(大 39
回)さんに縮めていただき
ました。一時から始まり
四時間半を超える交流会で
したが、お集まりの皆さん
の顔を拝見して、今年も
やって良かった。そして大

集合写真を撮影後、大 8
回の原弘先輩の乾杯の音頭
で恒例の懇親会が始まりま

した。

学の大先輩、後輩の付き合い
の奥深さを感じた一日でし
た。その後、有志が二次会
に流れ、小畑会長、杉崎さ
んと懇談して交流会を終え
ました。

今回の交流会は大学 26 回
から 39 回の卒業生が四名参
加したことは、大きな収穫
でした。来年は総会の年で、
第一三回支部総会となりま
す。関東支部活動が再開さ
れて、丁度一〇年の節目に
なります。予定では二月の
開催を計画していますが、
これから支部委員会で次第
の計画を作り一月頃案内し
ますので、多くの方、特に
若い方の参加を期待してい
ます。

最後に、今回の交流会の
出席者(敬称略)を紹介さ
せていただきます。

原弘(08)、鈴木潔(09)、
亀山幸輝(12)、近藤三郎

- (12)、清水宣雄(14)、小島
- 榎彦(15)、長島貞武(15)、
- 市川正(16)、杉崎護(16)、
- 岡田啓(17)、吉田吉明(18)、
- 浅井美文(19)、浅尾由一
- (19)、東海裕作(19)、田中
- 俊二(20)、平田友良(20)、
- 藤川誠一(20)、中島亨(22)、
- 丹羽誠一(22)、飯田徹也
- (23)、別所明(26)、森亮夫
- (27)、酒井和好(34)、井上
- 典之(39)、小畑仁(15)・三
- 翠化学会会長、犬伏和之
- (千葉大学院)

第 16 回 関西支部総会・交流会のご案内

日時：平成 26 年 11 月 15 日(土)
 談話会特別講演：「三重大学農芸化学の源流」嶋林幸英先生

関西支部会設立 30 周年となる記念交流会です。「三重大学農学部における農芸化学の歩み」を嶋林先生にたっぷり語っていただきます。同期の皆さんお誘いの上、奮ってご参加ください。



関東支部会第三回ゴルフ大会を開催

（優勝は大15回の小島楯彦氏）

関東支部第三回ゴルフ大会を平成二六年六月四日（水）、利根パークゴルフ場（茨城県取手市）で開催しました。今回は、昼食・ドリンク付き、パーティ六〇分飲み放題、優勝商品付きのコンペプランを企画しました。そのため、河川敷コースですが、JR常磐線取手駅に近いコースに設定しました。

今回は一〇名が参加し、三組のラウンドでした。当日は絶好の天気恵まれ、老若？各選手が和気あいあいの雰囲気なか、一喜一憂の熱が入ったプレーを展開しました。新ペリアのハンデ戦で行った結果、優勝は小島楯彦氏（大15回）で初の栄冠です。アウト四五・イン四二のグロス八七、ハンデ一五・六

ネット七一・二で、ただ一人のアンダーでした。準優勝は前回優勝者の吉田吉明氏（大18回）で、アウト四二・イン四六のグロス八八、ハンデ一三・二、ネット四七・八でした。三位は、昨年ブリー賞の平田友良氏（大20回）で、グロス九九、ネット七五・〇の健闘でした。原先輩（大8回）は、アウト四四・イン四五とグロス八九で、今年も八〇台で廻り（昨年はグロス八六）、年齢を感じさせなく、しかも堅実なプレー

でした。長島貞武氏（大15回）は昨年同様グロス八四で、今年もベスグロでした。三打差で近藤さんが制しました。近藤三郎氏（大12回）、亀山幸輝氏（大12回）の同級生対決は三打差で近藤さんが制しました。

三翠化学会会員の交流をさらに深めるために来年も引き続き開催します。三翠化学のホームページでもご案内しますので、次回は多くの方の参加をお待ちしています。また、関東支部以外の方の参加も大歓迎です。ゴルフを通して支部間の交流を深めて頂ければ幸いです。

皆様ご苦勞様でした。（関東支部長 吉田吉明 記）

今、私は

小林美里（大47回）

私は、三重大学生物資源学部農芸化学コース平成一年の卒業生であり、今は名古屋大学大学院生命農学研究科にて助教としております。学部四年生の一年間、古市幸生教授と梅川逸人准教授の栄養化学研究室（現・栄養機能工学）で卒業論文研究に取り組む中で、一から栄養学実験の基礎を学びました。動物実験から分析実験まで全てが楽しく感じられ、すぐに実験研究の虜になり、この一年間が研究

者志すきっかけとなった私の原点です。その後、名古屋大学大学院に進学し、栄養分野の実験研究を続け、八年前より現職の助教となりました。私が名古屋大学に進学したきっかけは、卒業生として研究室配属されて間もない頃、古市教授が名古屋大学の堀尾先生を紹介して下さったことでした。栄養化学の先生方、先輩方には快く、送り出していたいただき、その後も気に掛けてくださったことを感謝しております。

学位取得後はボスドクとして大阪大学医学部でお世話になりました。患者さんを診る中で生まれた疑問に

対して動物実験で解明する研究姿勢に触れ、研究には些細な変化を見逃さない気付きの力が大切なのだ学びました。この度、大学院生からのテーマであるモデルマウスを用いた「食事誘導性の糖・脂質代謝異常の遺伝因子に関する研究」に対して、五月末に日本栄養・食糧学会奨励賞を授与いただきました。今までに、食事誘導性2型糖尿病や脂肪肝の発症に関わる遺伝子が正常なマウスのゲノムに複数存在していること、さらに、それらの組み合わせで初めて発症することを明らかにしてきました。

私の研究ゴールは、食事によって誘導される2型糖尿病や脂肪肝の原因遺伝子を同定し、その遺伝子を食事因子により制御し発症の予防・治療にフィードバックすることですが、未だ進行中です。今後、生活習慣病における食事と遺伝子との相互作用の解明に向けて、候補遺伝子のノックアウトマウス作成等を進めていく所存です。

受賞にあたって今までの研究生活を振り返り、多くの先生方に育てていただいたことに感謝しております。改めて、私の研究生活の原点である三重大学でお世話になった皆様へ御礼を申し上げます。

光地ですが、一年の半分は雪に囲まれています。北海道の冬は内地（本州のこと）を道民は内地と呼びます。にはない厳しさです。内地に戻りたいと思うこともありますが、大きな氷柱やダミアモンドダストなど内地では味わえない楽しみも多々あります。是非、来てください。

ここに寄稿している先輩方は三重大学で学んだことを活かした仕事に就いて頑張ってみえますが、私は教員養成をしております。教

今、私は

森本兼司（大42回）



早いもので修了して一五年が経とうとしています。三重大学には、学生として三年間、博士研究員として三年間もの間お世話になりました。所属は当時の応用微生物学研究室で退官された嶋田協先生、大宮邦雄先生、そして現教員の栗冠和郎先生、木村哲也先生にいろいろなることを教わりました。その間にすっかり微生物の魅力にとりつかれ、幸せなことには香川大学希少糖研究センターで微生物の酵素を利用する研究に取り

組んでいます。地球上で最も豊富に存在する単糖がブドウ糖であることはよく耳にすると思いますが、希少糖とは逆に天然にほとんど存在しない単糖類と定義されています。（詳しくは <http://www.kaganet.ac.jp/str/index.html>）単糖類は僅かな構造の違いでその機能性（甘さも含めて）が異なっています。

例えば、香川大学が力を入れているD-ブシコースには抗肥満効果、血糖値上昇抑制作用が、またD-アロースには虚血保護作用、がん細胞成長抑制作用など、カロリーはほとんどありませんが、甘さをほどよく有していることから、食品・

医薬品・農業などでの応用が期待されている新素材です。既に商品化されている希少糖もあります。我々のグループでは酵素反応や簡単な水素添加法などの化学反応を用いた効率的な生産方法を開発しています。現在、一〇〇種ほどの希少糖に的を絞っています。そのうちを生産するための酵素は一〇種ほどしかありません。実は、希少糖を生産する酵素はいずれも微生物由来であり、また一般的な酵素と違い基質特異性が緩いことが大きな特徴となっています。ある程度構造が類似していると反応する、つまり一種類の酵素で複数の基質を認識できる

地域イノベーション研究開発拠点」という建物が新築されました。場所は、遺伝子実験施設の図書館側、畜舎の横です。

建物には、地域イノベーション研究科をはじめ、社会連携研究センターと生命科学支援センターの一部が入り、地域との連携をもとにイノベーションを生み出す拠点として、期待されます。

前の三階建て中層棟と奥の五階建て高層棟から構成されています。手前右側が遺伝子実験施設の建物です。

地域イノベーション研究開発拠点完成

平成二六年一月に、「地域イノベーション研究開発拠点」という建物が新築されました。場所は、遺伝子実験施設の図書館側、畜舎の横です。



平成二六年一月に、「地域イノベーション研究開発拠点」という建物が新築されました。場所は、遺伝子実験施設の図書館側、畜舎の横です。



今、私は

菅野友美（院27回）

北の国に居ます。三重大学を修了して以来、中部地方の企業や大学を転々としておりましたが、思いきって海を渡り（といっても国内ですが）旭川へ移りました。旭川は北海道の中心より少し北にあり、大雪山などの山々に囲まれた盆地です。北海道は夏でも涼しいと思いきや、夏は暑く冬は寒い日本一温度差のある地域です。北海道は大自然に囲まれ、夏の間は最高の観

光地ですが、一年の半分は雪に囲まれています。北海道の冬は内地（本州のこと）を道民は内地と呼びます。にはない厳しさです。内地に戻りたいと思うこともありますが、大きな氷柱やダミアモンドダストなど内地では味わえない楽しみも多々あります。是非、来てください。

ここに寄稿している先輩方は三重大学で学んだことを活かした仕事に就いて頑張ってみえますが、私は教員養成をしております。教

旧棟の今（大学の思い出シリーズ）

旧農芸化学棟の現在、写真は、1967年に撮影された旧化学棟です。今でも、その一部の建物が残っています。



現在の旧化学棟の様子です。教育学部校舎の間に建っております。近くには、三翠寮跡の石碑もあります。

卒業 50 周年



大学 11 回(昭和 38 年)の卒業生 15 名の皆様が、卒業 50 周年記念に三重大を訪問されました。詳細は、三重大 HP (<http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2013/11/1550.html>) に紹介されています。



三翠会館前での記念撮影

生物資源学部・生物資源学研究所の改組

● 大学近況 (2)

生物資源学部・生物資源学研究所は、平成二七年度に学部及び大学院の改組を予定しており、現在文部科学省に申請中です。現在ある三学科の名称に変更はありませんが、学料定員(資源循環学七〇名、共生環境学七〇名、生物圏生命科学一〇〇名に変更)の適正化とともに、学科ごとに二つの教育コース(合計六コース)を設定し、専門分野の再編成、つまり研究室の大幅な移動が行われます。

農芸化学の流れをくむ研究室は、現在、資源循環学と生物圏生命科学の二つの学科の三つの講座に分かれておりますが、改組後は土壌圏生物機能学(旧土壌学・植物栄養学)を除き、生物圏生命科学の生命機能化学講座(新名称)に統合されます。研究室名も多少変更する予定で、現在検討中です。改組後の生命機能化学講座は以下のような組織になります。

分子細胞生物学(奥村克純教授・緒方進助教)、分子生物情報学(田中晶善教授・三宅英雄助教)、生理活性化学(稲垣讓教授)、生物機能化学(勝崎裕隆准教授)、食品機能化学(寺西克倫教授)、生物情報工学(橋本篤教授・末原憲一郎准教授)、食品資源工学(磯野直人准教授)、食品発酵学(菊田修一教授)、微生物工学(粟冠和郎教授)、微生物遺伝学(木村哲哉教授)、栄養機能工学(梅川逸人教授・西尾昌洋准教授)

改組に関する詳しいことは、学部・研究所のホームページをご覧ください。(梅川逸人記)

● 平成 25 年 三翠化学会 同窓会 ●

講演会 「伊勢神宮と式年遷宮」 山田教授(三重大学人文学部)
 懇親会 レストラン「四喜折々」(於 大学病院新館)
 司会 木村幸信氏/幹事 向原健人氏、三島 隆先生、前田祥貴氏/乾杯音頭 福田 映氏



山田教授



福田 映氏



田中晶善理事・副学長



木村幸信氏



向原健人氏

三島 隆先生

前田祥貴氏



谷 由美子氏



鈴木 卓氏

二次会 民宿「中井荘」(於 志摩市浜島)



吉田吉明関東支部長



古橋雅巳関西支部長



中締め 岩佐則武氏



応援歌斉唱 前田祥貴氏



三翠化学会の HP のお知らせ

検索サイトで三翠化学会を検索いただくか、以下の URL でアクセスください。

URL <http://sansui.bio.mie-u.ac.jp/dosokai/kagaku/kagaku.html>

機関紙「三翠化学」の PDF もダウンロードできます。同窓会、同期会、研究会の同門会の開催予告など HP に掲載したい内容がありましたら、電子メールで菊田までご連絡ください。karita@innov.mie-u.ac.jp

また facebook にも「三翠化学会」のページを作りました。facebook の友達検索で、「三翠化学会」と入力いただければ、アクセスできます。ぜひ「いいね」を押してください。

Google マップでのストリートビュー

Google マップでは、三重大学内のストリートビューを提供しています。コンピュータ上で、学生気分にもどって学内を散策してみたいはいかでしょうか。

Google 地図にて、「三重大学」で検索し、ストリートビューで学内散策ができます。

伊勢神宮参拝

